

第2回 府中町公共交通協議会 議事録

○日 時：平成30年12月6日（木）、14：00～15：30

○場 所：府中町役場5階 第1委員会室

○出席者：委員15名（欠席1名）

○説 明：府中町建設部都市整備課計画係

1. 開会

2. 委員の交代および職務代理の選出

【事務局】

梶川委員が異動により、井上委員に交代した。前回の協議会で梶川委員が職務代理者に指名されたが、改めて職務代理者を選出する必要がある。府中町公共交通協議会規約 第5条第3号により、会長があらかじめ指名することとなっているため、会長に指名をお願いする。

【大東会長】

井上委員を指名する。

3. 議題

①書面審議の結果について

【事務局】

前回の協議会において、府中町公共交通協議会規約の事務局案に対し、委員から提案があった。提案を基に、事務局が修正案を作成し、書面にて審議していただいた結果、賛成多数で可決されたことを報告する。

資料1に、規約を添付しているため、確認をお願いしたい。

②府中町地域公共交通網形成計画の策定について

・「計画策定の主眼」について

【事務局】

「計画策定の主眼」について説明

【委員】

今から調査を実施し、いろいろな課題が見えてくるのだと思うが、地域公共交通はつばきバスだけでなく、JRやタクシー、一般の路線バスなどもある。これらについても、今後検討していく必要があると思うが、考えがあれば聞きたい。

【事務局】

JRやタクシーなど、バス以外についても、利用状況や改善要望などをアンケート調査で把握することとしており、調査結果を基に検討を進めていきたいと考えている。

【委員】

つばきバスの当初の導入目的は、府中町の南部と北部の交流であったと思う。説明には、この南北の交流という言葉が出てこなかったが、位置づけが変わったのか。つばきバスのあり方についても、アンケート調査などでも聞いてもらいたい。

【事務局】

当初から、南部と北部の交流を目的に運行している。後ほど資料 5 で説明するが、実際の利用データを基に、南部と北部の移動割合の把握を行っている。実際の利用実態を示しながら、利用しやすい運行となるよう検討を行っていきたいと考えている。

【委員】

府中町内では拠点整備が進んでいる。例えば、府中北交流センターは、利用が盛んであるが、つばきバスの運行ルートから外れている。その他、くすのきプラザなど、利用頻度の高い施設への利便性を高めるような路線変更についても検討してもらいたい。

【事務局】

向洋駅周辺の道路整備が進むこともあるため、つばきバスのルートの見直し検討は行う予定である。しかし、実際のルート変更には、バスが走れる道路幅員や、1 周を回る時間などの制約も踏まえたものとする必要がある。

【委員】

計画策定の主眼に、府中町の上位計画との関連が示されていない。前回の資料にあった、商工住のバランス、ふちゅうブランド、子育て世代の居住などとの関連を、資料の中でも示してはどうかと思う。

【事務局】

前回の資料には示したが、府中町のまちづくりにおける最上位計画である府中町第 4 次総合計画においても公共交通のサービス向上を課題として挙げている。都市計画マスタープランにおいても、公共交通の利用促進やサービス向上、向洋駅周辺の利便性の向上などの内容が盛り込まれている。今回の説明では割愛させていただいた。

・「アンケート調査の方向性の内容」について

【事務局】

「アンケート調査の方向性と内容」について説明

【委員】

住民アンケートのタクシーに関する設問（問 9）に、デマンド交通とあるが、16 歳の方にはわからない可能性がある。もう少し、表現を工夫してはどうか。

【大東会長】

悩んだところである。説明を加えるなど、工夫する。

【委員】

この調査票では、町内から町内への移動の状況が把握できないと思うが、想定されていないのか。先ほど、つばきバスは町内での移動を支援するとの話もあった。調査票の目的地の選択肢が、府中町内、八丁堀・紙屋町周辺、広島駅周辺などとなっており、府中町内での移動の状況が把握できないのではないのか。

【大東会長】

お住まいの場所は聞いているので、目的地の府中町内の選択肢を「府中町内」だけでなく、もう少し分割するなどすれば、町内での移動の状況も把握できるのではないかというご意見であった。

【事務局】

おっしゃるとおり、悩んだ部分である。買い物や通院については、具体的な施設名を記載してもらうなど調整する。通勤・通学については、具体施設名の記入は敬遠される可能性があるため馴染まないかと思う。

【委員】

アンケート調査に詳しくないが、4,000人に配布するとのことだが、府中町の人口の10%にも満たない数だが問題ないのか。例えば、難しいかもしれないが、10代から80代まで、それぞれの年代に100人ずつ、合計8,000人に配布した方が、年代別の傾向を把握できるのではないかと思う。無作為で選ぶと、年代で偏りが出てきてしまう可能性があるように思う。

【事務局】

府中町の16歳以上の人口が約44,000人であるため、4,000人という数は9%である。無作為抽出とするため、実際の年齢構成や地域別の人口と同じ割合でサンプルを抽出することを想定している。

第4次総合計画策定時のアンケート調査では、3,000票配布し、回収率が40%であった。

【大東会長】

国勢調査をイメージされると思うが、国勢調査は世界的にも稀な全数調査であり異例である。よく聞く視聴率は1%に満たないサンプリングで算出している実態もある。事務局の説明でもあったように、年齢や地域に偏りがないように配布するのであれば、母数に対して10%程度の抽出というのは、統計的に問題ない数字あり、回収率40%が見込めるのであれば、十分に期待できる調査となると考えている。

その他、ご意見や質問はないか。

【委員一同】

なし。

【大東会長】

では、いただいた意見を基に、事務局で修正し、調査を実施することとしたい。修正に関しては、会長に一任いただくということでよいか。

【委員一同】

了承。

③「府中町の交通施策の取り組み状況」について

【事務局】

「府中町の交通施策の取り組み状況」について説明

【委員】

実際につばきバスに乗られた感想があったが、まさにその通りである。説明にPASPYが利用できるとあったが、ICOCAも利用するため、そのことも資料に記載し、PRしてもらいたい。

【事務局】

了承。

【委員】

つばきバスの主な利用パターンは、住宅団地からイオンモールに買い物に行って、帰られる利用が多いということが良いか。

【事務局】

高齢者の利用が多く、おっしゃるとおり団地からイオンモールへの買い物利用が多い印象があり、データでも確認できている。朝の便では、イオンモールからチェリーゴードへの利用も多く、通勤で利用されているのではないかと思う。その他、朝の便でマツダ病院への利用も多い。

【委員】

アンケート調査では、住民とつばきバス利用者が対象であったが、町外から来た方の公共交通の利用状況

を把握する予定はないか。

【事務局】

現時点では想定していない。ただ、つばきバスの利用者は、町外の方もいる。

【大東会長】

つばきバス利用者アンケートでは、町外の方の利用状況も把握できると考えている。アンケート調査や利用実績データを用いて、例えば、便数が増えたら、その分利用者が増えるのかなどの検証もできればと考えている。

④「地域公共交通確保維持改善事業に係る平成 30 年度事業評価」について

【事務局】

「地域公共交通確保維持改善事業に係る平成 30 年度事業評価」について説明

【委員】

評価が B 判定ということだが、自然災害という避けられない理由であるため、残念な結果にしなくても良いのではないか。

【委員】

1 次評価は自己評価なので、運輸局の立場では発言できない。調査事業であり、この時点で事業が完了することはなく、また見込みであるため評価 A にしておき、別途説明しても良いとは思う。災害の影響ということであれば、被災した他の自治体の評価がどうなっているかということもあるが、個別の自治体の判断で良いと思う。

【大東会長】

横並びにする必要はないので、府中町の判断でよいのではないか。

平成 30 年度事業評価について、賛成いただけるか。

【委員一同】

賛成。

4. その他

【事務局】

「平成 30 年西日本豪雨災害による府中町の被害状況」について説明

【事務局】

次回の府中町公共交通協議会は、3 月を予定し、実態調査結果のほか、計画の方針、目標、再編の方向性についての議論を考えている。

5. 閉会